



<https://sgmirai.jp>

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成

● 育成を目指す未来医療人像

- ◎ **地域への愛着と地域医療を担う資質・能力・マインド**を持った医師
- ◎ **小児科・産婦人科・救急医療・感染症科、総合診療・プライマリケア**から高度・先端医療まで、**これから必要となる臨床能力**を身につけている医師

埼玉・群馬県民の健康長寿の実現

地域医療（埼玉・群馬県境地域）を志す学生の質・量の向上

アウトカム

- ・地域枠への入学希望者（地域枠選抜試験受験者数）の増加
- ・卒業時アンケートにおける地域医療を志す学生の増加
- ・産婦人科、小児科、救急科、総合診療科を専門研修で専攻する卒業生の延べ人数の増加
- ・地域枠学生の医師不足地域（指定地域）医療機関での延べ勤務数

● 埼玉県・群馬県の共通の課題

- ・県境地域の医師不足
- ・県境地域における埼玉県から群馬県への患者流出
- ・急速な高齢化、診療科偏在

● 新しいカリキュラムの特徴

- ① **埼玉県・群馬県の理解を深める**
- ② **早期から学ぶ**
 - ・将来地域で求められる**がん医療・難病医療**
・ 遺伝医療
 - ・ **総合診療・プライマリケア・地域医療実習**
- ③ **人の暮らしを支える**
- ④ **感染症による危機管理に対応する**

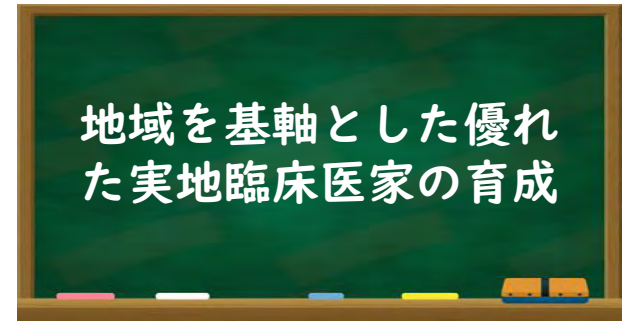
カリキュラムマップ

	プログラム1 地域を基軸とした優れた実地臨床医家の育成			プログラム2 ポストコロナ時代の地域感染症対応人材養成		プログラム3 地域への愛着を形成する埼玉県地域医療			プログラム4 はじめて学ぶ地域医療		プログラム5 県境地域から学ぶ地域医療集中演習	
	社会のニーズを的確に把握し、患者中心の医療を実践し、社会に貢献することを目指し、誇りを持って自己研鑽を続ける人材			ポストコロナ時代における新興・再興感染症に対応するマインドとスキルを持った医師		地域の課題を発見し、その課題解決に取り組むための技術を身につけ、埼玉県に対する愛着を持って地域医療に貢献する意欲を持った人材			地域における医療の実際と医療行政に関する知識を身につけ、医師不足地域の課題及びその解決方法について考えることができる人材		地域医療を通じて、社会貢献する向上心及び自身の専門性を地域に還元する意欲を有し、医師不足が深刻化している埼玉・群馬県境の医療情勢に精通するジェネラリスト（利根川プログラム）	
対象	医学部医学科の全学生			医学部医学科の全学生		医学部医学科の地域枠学生と関心のある学生			医学部医学科生（地域医療枠学生及び地域医療に関心のある一般枠学生）、保健学科生（看護学、検査技術科学、理学療法、作業療法）、共同教育学部生、理工学部生、情報学部生		医学部医学科生（地域医療枠学生及び地域医療に関心のある一般枠学生）	
6年	R6開始 CCstep3指定学外施設実習		R6開始			R6開始 CCstep3特定地域指定学外施設実習		R4開始			R5開始	
5年	R6開始 CCstep1特別演習2		課外学習プログラム： 総合診療とプライマリケア	R6開始 CCstep1総合診療内科感染症実習							県境地域から学ぶ 地域医療集中演習 （利根川プログラム） <small>地域医療体験セミナーin群馬／数日型地域医療体験セミナーin群馬／群馬県臨床研修病院等見学 バスツアー</small>	
4年	R5開始 地域医療とチーム医療4	R5開始（R4試行） PreCC2-I							R5開始			
3年	R5開始（R4試行） PreCC1-I			R6開始 地域医療とチーム医療3								
2年	R6開始 地域医療とチーム医療2					R5開始 選択必修：総合診療とプライマリケア	R5開始 選択必修：地域医学・医療学入門					
1年	R5開始 地域医療とチーム医療1 （群馬大学との合同実施）	R6開始 臨床入門I		R5開始 臨床推論I					R5開始	はじめて学ぶ地域医療		
	講義型	実習型	課外学習	講義型	実習型	講義型	実習型	課外学習	講義型	実習型	課外学習	

教育プログラム

3年生導入クリニカル・クラークシップI-I
(医学部保健医療学部合同IPE)

1年生地域医療とチーム医療
(映像を用いた演習)



令和5年度
医学部・保健医療学部
合同IPE
～患者・利用者中心の安心安全な医療を目指して～

日時：
令和5年5月27日(土) 9:00～17:00
令和5年6月10日(土) 9:00～17:00
場所：
埼玉医科大学毛呂山キャンパス
カタロスタワー
2階実習室、3階実習室
(5/27) 地下1階実習室
(6/10) 7階コンシリウムホール

IPE: Interprofessional Education
専門職連携教育
両学部の3年生全員約360人が、60チームに分かれて、医療安全、患者安全管理、そして質の高い暮らしの実現を目指した**患者・利用者中心の医療**を提供できるように連携・協働して取り組みます。

問い合わせ先 医学部事務室学務課 (内線41-2020)
医学部担当教員 柴崎智美 picorass@saitama-med.ac.jp
保健医療学部担当教員 辻美晴 ytsuji@saitama-med.ac.jp
見学・協力いただける方は、事前に上記問い合わせ先、担当教員にてご連絡ください。
なお、当日の参加も可能です。
「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業」

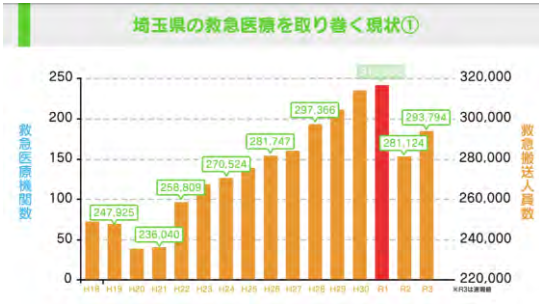
ヒヤリハット事例のRCA



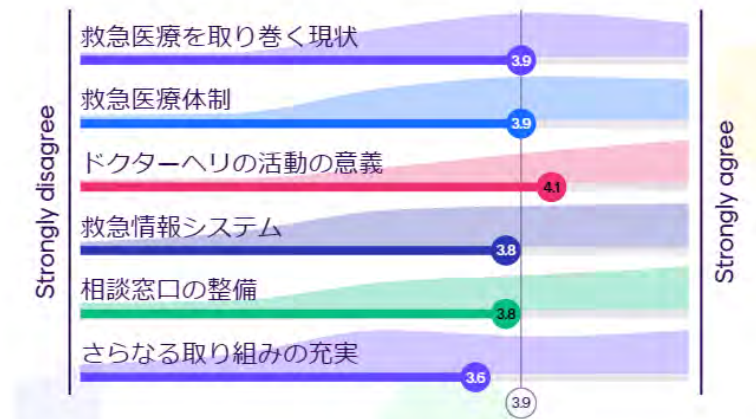
高齢者の暮らしを支える計画



地域医療を理解する
埼玉県の医療
周産期医療



周産期医療・救急医療の理解



2023年5月2日Mentimeterで収集

教育プログラム2

4, 5年生 クリニカル・クラークシップ Step1 (総合診療内科感染症実習)

1年生 臨床推論 (感染症のTBL: 動画視聴 後グループワーク)

ポストコロナ時代の地域感染症対応人材養成

1) シナリオベースの感染症診療実習

総合診療内科CC-Step-1 (火曜日午後[隔週]に実施)

□ 2つのシナリオをもとに遠隔診療/臨床推論/検体観察の実習

ただいま、3つ目のシナリオを作成中

□ テキストの作成; 冊子を作成し配布、Webでも公開

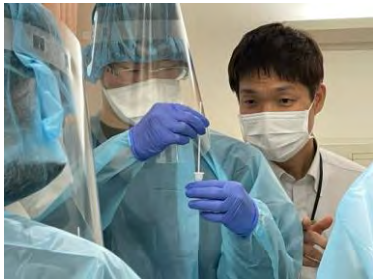
さまざまな臨床検体のデジタルスライドをサーバーに保存

テキストとはQRコードでリンクし、自宅で顕微鏡観察の実習ができるようにした♪

2) 検体採取実習

総合診療内科CC-Step-1 (火曜日午後[隔週]に実施)

□ 手指衛生法、PPE着脱実習、モデル用いた検体採取実習



山本亮太君は晴れてS医科大学医学部に合格し、2017年の4月から1年生としての新生活を始めた。親元を離れ、初めての一人暮らしで生活環境が変わって大変だったが、友達も出来てようやく新生活にも慣れてきた。

クラブは高校でもやっていたテニス部に入った。日中は講義に出席し、夜はテニスの練習、先輩との食事会など、充実した医学部の学生生活を大いに楽しんでいった。

オリエンテーションの際、たまたま隣に座った内田新平君と気が合い、とても仲良くやって、昼食、夕食などをともにすることが多くあった。

ある日、内田君が欠席したので、携帯電話で連絡したところ、その後に皮膚に赤いぶつぶつが出てとて。内田君は1週間程前から「風邪ひいたかも」ようになっていたのだが、さらにひどくなってしまう。

埼玉医科大学病院における
新型コロナウイルスへの取り組み

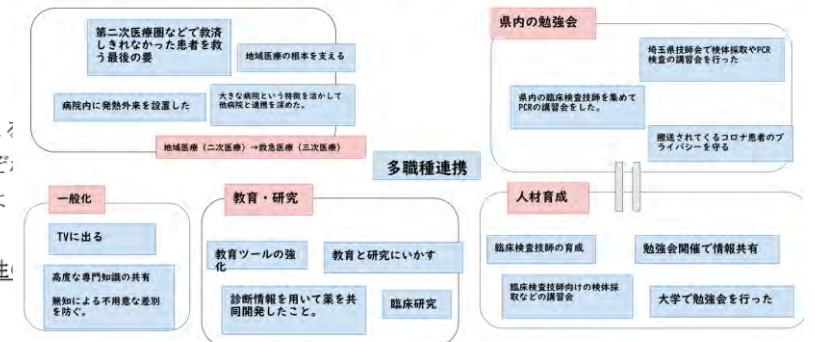
大学病院 感染対策室 編集

Q1. 内田君の【病的な出来事】と考えられること

Q2. 同じような症状になっ

Q3. このような症状が起こる
Q1で挙げられたそれぞれ
科診断学)で調べてみよう。
を用いて調べてみよう。
スマホやネットで信頼性

COVID-19流行下での大学の役割



教育プログラム3

1年生選択必修 地域医学・医療学入門
(県内8地域の8市町の地域診断)

課外学習プログラム

地域への愛着を持って
埼玉県の地域医療に
貢献する人材

選択必修
地域医学・医療学入門
川越比企医療圏、毛呂山町



毛呂山町の文化

奈良時代の高僧・行基の訪れによって仏教文化が芽生える



毛呂山町の文化②

流鏝馬祭り

源義家が戦勝のお礼に毛呂山町を訪れ、八幡社を建て、流鏝馬を奉納したことが始まり

15歳前後の少年が乗馬しながら矢を射る



交通

JR八高線：毛呂駅
1時間に1本ほど

池袋まで約1時間

あまり利便性が良いとは言えない

町内循環バスはある



東武生越線：川角駅・武州長瀬駅・東毛呂駅
1時間に4本ほど

毛呂山町の強み・魅力

1, 埼玉医科大学とその大学病院がある

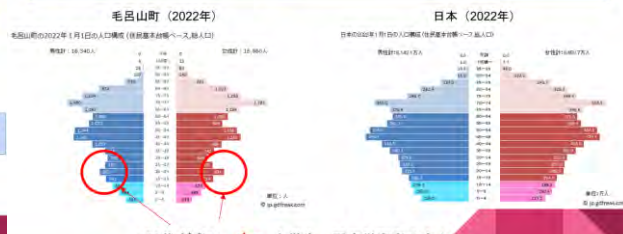
毛呂山町には埼玉医科大学と埼玉医科大学病院がある。
→毛呂山町だけでなく、埼玉県全体の健康増進に貢献

人口10万人あたりの医師数
全国平均 253.66人
毛呂山町 1459.03人

大きく上回っている。



2, 若者の人口比率が大きい



地域診断に取り組んで気づいたこと・学んだこと

- ・人口や地理的条件、風習などその土地にまつわる様々なことについて知らないとその町の魅力や課題は見えてこないと学んだ。
- ・将来地域で働く医師、社会人として地域について知ることは必要な事だと感じた。

文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」
埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成

令和5年度課外学習プログラム

埼玉の医療
夏季病院見学

文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」
埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成

令和5年度課外学習プログラム

利根川プログラム
病院見学バスツアー

【対象】 埼玉医科大学医学部 1～5年医 (群馬大学医学部看護学専攻と合同)
【乗定員】 最大 各回5名
【乗継内容】 詳細は下記の通りです。

埼玉医科大学に集合し、病院までバスで移動します。担当教職員が同行します。

<行程>
A - 8/14(月) 大学→利根川山田市立病院→林野→伊勢崎市立病院→大学
B - 8/16(水) 大学→清玉宮加護病院→林野→沼津厚生病院→大学
C - 8/22(火) 大学→太田記念病院→林野→沼津市立病院→大学

【お申込み】 QRコードまたは以下のURLへアクセスし、お申し込みください。
<https://forms.gle/EJ7HupQVjNqRtY13R>

【締切】 令和5年7月22日(土)

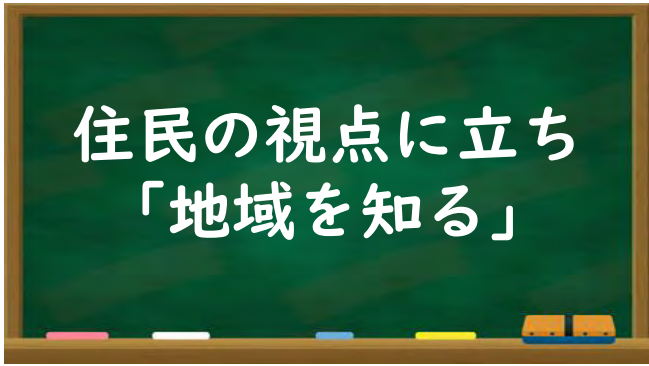
【問い合わせ先】 埼玉医科大学医学部事務室事務課
埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局
群馬：古賀、尾崎
TEL: 049-276-1109 FAX: 049-276-2039
E-mail: sgrpr@msu@u-saitama-med.ac.jp

2年生選択必修
総合診療とプライマリケア

	月日	曜日	時限	講義名	内容
選択必修1	9月4日	月	4,5限	総合診療とプライマリケア	プライマリ・ケアとその特徴
選択必修2	9月25日	月	4,5限	総合診療とプライマリケア	プライマリ・ケアと総合診療・家庭医療
選択必修3	10月23日	月	4,5限	総合診療とプライマリケア	総合診療・家庭医療の理念・使命と必要な資質と体系的アプローチ
選択必修4	10月30日	月	4,5限	総合診療とプライマリケア	連携重視の医療地域志向ケア
選択必修5	11月6日	月	4,5限	総合診療とプライマリケア	患者中心医療 生物心理社会モデル
選択必修6	11月27日	月	4,5限	総合診療とプライマリケア	多疾患併存 (multimorbidity)と慢性臓器障害
選択必修7	12月4日	月	4,5限	総合診療とプライマリケア	高齢者医療 包括的予防医療
選択必修8	12月11日	月	4,5限	総合診療とプライマリケア	総合診療における研究 海外のプライマリ・ケア
選択必修9	12月18日	月	4,5限	総合診療とプライマリケア	総合診療医・家庭医育成とキャリア

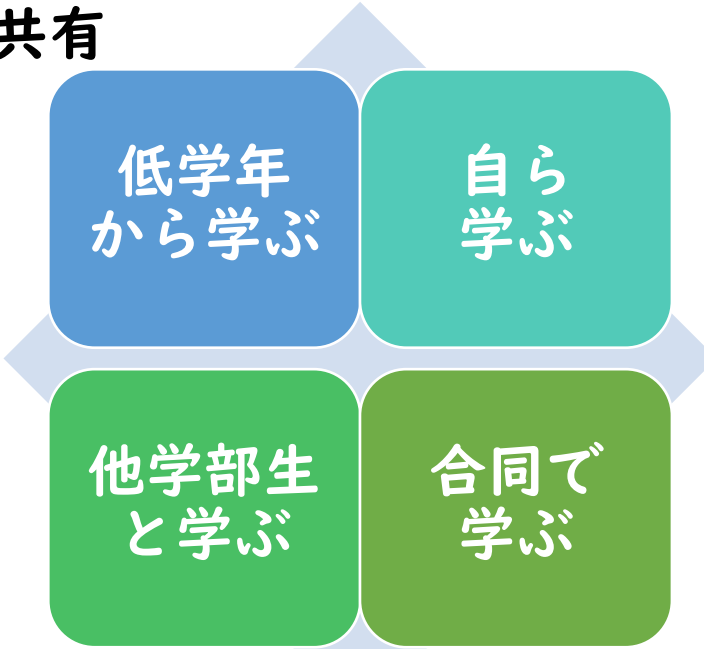
教育プログラム4

はじめて学ぶ地域医療



1年次の教養教育科目：
 埼玉・群馬の県境地域の医師不足について、多様な視点からの考えを共有

埼玉・群馬はどのような地域なのか、学生自身が調査



講義：未来を語ろう！



地域診断：グループワーク



地域診断：グループ発表



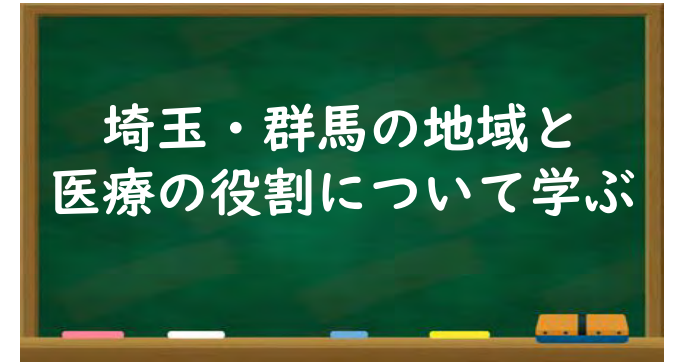
埼玉医大との合同講義

学部	履修登録者数
医学科	11
保健学科	37
理工学部	11
共同教育学部	7
情報学部	0
合計	66名

埼玉医科大学・群馬大学合同のオンライン講義・発表・ディスカッション

教育プログラム5

県境地域から学ぶ地域医療集中演習 利根川プログラム



①事前学習（オンライン合同学習）

②バスツアー（合同実習）

日程	コース名	コース内容	群馬大学	埼玉医科大学	合計人数
8月14日	みらい1	東松山市立市民病院-伊勢崎市民病院	1	1	2
8月15日	みらい2	公立藤岡総合病院-小鹿野中央病院	3	1	4
8月16日	みらい3	済生会加須病院-公立館林厚生病院	1	3	4
8月17日	みらい4	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	3	1	4
8月21日	みらい5	公立藤岡総合病院-秩父市立病院	0	1	1
8月22日	みらい6	太田記念病院-深谷赤十字病院	2	1	3
参加者		述べ人数	10	8	18



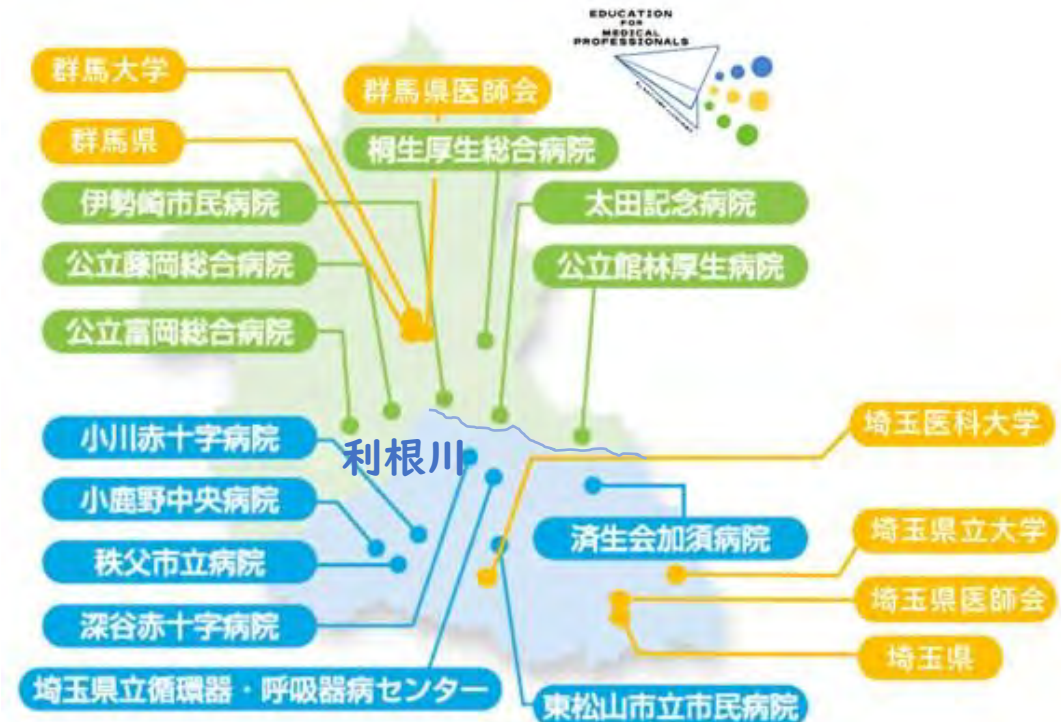
公立館林厚生病院



埼玉県立循環器・呼吸器病センター



伊勢崎市民病院



③病院実習（各自で参加）

④振り返り学習（オンライン合同学習）

教育プログラムの共同開講に向けた検討



埼玉医科大学



国立大学法人
群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

教育プログラム1：地域医療とチーム医療

教育プログラム4：はじめて学ぶ地域医療

目標の共有

少子高齢化や医療費増大、人口減少社会を迎える地域社会・医療の課題を解決するために必要な基本的な知識、技能、態度、価値観を身につけることを通して、将来地域・社会で役に立つ医師になるための素養を育む。

遠隔授業

- ・ Zoom利用
- ・ 映像教材のオンデマンド視聴
- ・ 講義時間の確保：埼玉医大65分2コマ／群馬大学90分1コマ

別ユニット（地域枠学生、選択必修）での学習発表

実務経験のある教員によるオムニバス形式の講義

教育プログラム3：課外学習プログラム
利根川プログラム

教育プログラム5：県境地域から学ぶ地域医療集中演習
利根川プログラム

合同での見学実習

- ・ 埼玉／群馬の県境地域での実習
- ・ 実習時期の検討：夏季・春季休業を活用
- ・ 教職員同行のバスツアー

遠隔授業

- ・ 事前学習及び振り返り学習
- ・ Zoom利用

連携体制の構築と拠点構築のための取り組み

教育環境の整備

埼玉・群馬の健康と医療を支える
未来医療人の育成事業
物品貸借に関する説明会
2023年10月31日(対面、Zoom併用)
連携医療機関8人、学内10人参加
学生実習用PC、シミュレータ貸与の契約



令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定(令和4年度～10年度、7年間)
埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成



埼玉・群馬の健康と医療を支える
未来医療人の育成プロジェクトとは？

埼玉県と群馬県は利用地を隣接しており、古くから教育、医療、福祉をはじめとする様々な生活圏をともに構成してきました。連携医療機関として、埼玉医科大学と群馬大学が担っており、特に両県の東部地域は、昔から群馬大学出身の医師による医療の提供が行われてきました。

ニュースレター3号、4号発刊

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成 Newsletter 第3号

「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業」連携推進会議およびシンポジウムを開催

■第2回連携推進会議

■埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム
～地域での育成と連携、地域医療の未来～

■本プロジェクトで大切にしていること vol.3
「未来医療人育成」の意義と役割

令和5年度開講のプログラム紹介(埼玉医科大学)

プログラム1: 地域医療とチーム医療(群馬大学との合同実習)

プログラム3: 地域医療・医療入門

事業概要紹介動画を公開しました

令和6年
2月29日(木)
会場: レイブ록ホール
ウェビナー-群馬大学

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成 Newsletter 第4号

■新しい時代に即した埼玉・群馬の連携体制の先に貢献します

令和5年度開講のプログラム紹介(群馬大学)

プログラム4: はじめて学ぶ地域医療
群馬大学大学院専攻科研究科 総合診療学専攻 前田 小和朗 金子

プログラム5: 現場地域から学ぶ地域医療実中演習(群馬川プログラム)
群馬大学医学部附属病院 地域医療研究センター 群馬 須島 麗子

令和5年度 シンポジウムのお知らせ

埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成シンポジウム

令和6年2月29日(木) 13:30~16:00(予定)
会場: レイブ록ホール 7階小ホール(市民会館おきみ)
埼玉県大宮区大門町2-118 大宮駅東口徒歩3分

令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定(令和4年度～10年度、7年間)
埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成



2023年度 埼玉県地域枠学生懇話会 第1部 特別講演

令和5年12月23日(土) 13:30~14:30(予定)
演題: 地域包括ケアシステムの進展と医療の展望
講師: 埼玉医科大学理事 田中 滋氏

令和6年2月29日(木) 13:30~16:00(予定)
会場: レイブ록ホール 7階小ホール(市民会館おきみ)
埼玉県大宮区大門町2-118 大宮駅東口徒歩3分

参加費無料

講師: 田中 滋氏(埼玉医科大学理事)

お問い合わせ先: 埼玉医科大学 総務課 028-251-5100

連携体制の構築と点検評価体制

運営体制

構成員：各機関の代表
年1回開催

埼玉・群馬未来医療人育成連携推進会議

埼玉医科大学	群馬大学	秩父市立病院	小川赤十字病院
埼玉県	群馬県	深谷赤十字病院	済生会加須病院
埼玉県医師会	群馬県医師会	東松山市立市民病院	小鹿野中央病院
埼玉県立大学		県立循環器・呼吸器病センター	公立富岡総合病院
		公立藤岡総合病院	桐生厚生総合病院
		伊勢崎市民病院	太田記念病院
		公立館林厚生病院	

地域枠/地域医療枠
学生の支援

実習受け入れ施設の調整

映像教材作成の協力



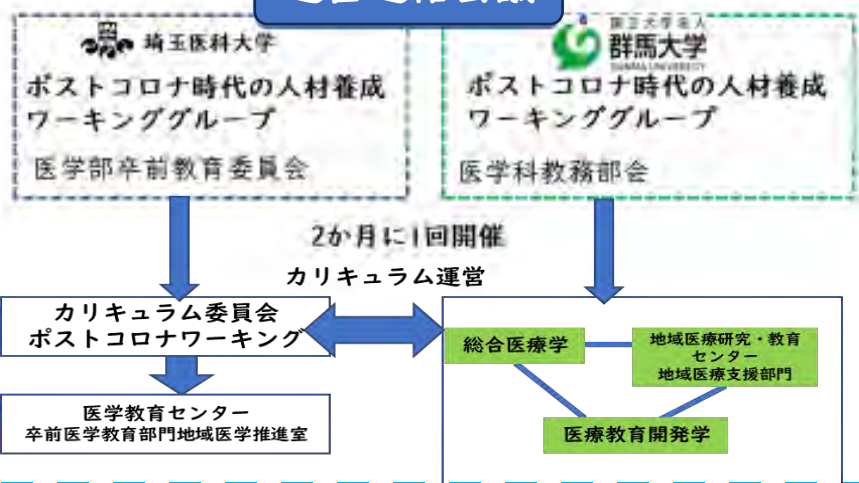
利根川プログラム
課外プログラムへの協力
病院見学 (埼玉医大)
埼玉の医療学習会 (埼玉医大)
実習の受入れ

運営連絡会議

埼玉・群馬未来医療人
育成外部評価委員会

e-learningシステムの
構築

FDへの参加・シンポジ
ウムの共同開催



外部評価委員会委員構成
①医師不足地域市長
②医師不足地域病院長
③卒業生 ④患者代表
⑤学識経験者

<評価方法>
自己評価
→外部評価委員への説明
→外部評価委員個別評価
→評価委員会による評価
→連携会議への報告